

<S-2> 黄色ブドウ球菌腸管毒素様スーパー抗原P型(SEIP)応答性マウスT細胞の解析

○今西健一¹、重茂克彦²、阿部洋平²、李仲娟¹、加藤秀人¹、胡東良³、中根明夫³、品川邦汎²、内山竹彦¹

(1;東京女子医大・医・微生物免疫、2;岩手大・農・獣医、3;弘前大・医・細菌)

我々は、昨年の本会で、黄色ブドウ球菌由来腸管毒素様スーパー抗原P型(SE-like toxin type P, SEIP)がマウスの系でスーパー抗原活性を示し、SEIP応答性マウスT細胞はVβ3、Vβ11、Vβ12陽性T細胞であることと、さらにSEIPを封入したポンプをマウスの皮下に埋設したSEIP持続暴露によるSEIP応答性T細胞の変動を検討し、Vβ11+CD4+T細胞は長期に高い増幅を、Vβ3+CD4+T細胞は低い増幅を示し、同じVβ3、Vβ11を活性化するSEAと応答性T細胞の変動が異なることを報告した。今回は、SEのTCRとの反応に関わると推定されている部分をSEAとSEIP間で相互に入れ替えたmutantを作成し、ある特定の部分が、Vβ3、Vβ11の変動の違いを決めることを見出したので報告する。